

互いに研究発表

熊本医学会水俣例会

第二百六回熊本医学会水俣例会は
十一日午後二時から水俣市湯之見

の山海館で世良熊本医学会会長はじ
め熊本大医学部、水俣市立病院、新
日簗村属病院、県内外各医師のほ
か関係者約三百人が集まって開き
た。

まず新日簗村属病院の小島照和

氏が水俣病に似た小脳症状を主
とする脳血管障害の一例と題し
て講演、スライドで解説、独自

の研究発表を行なって注目され

た。つづいて市立病院の武田省

吾氏は「水俣病における尿中ポ

リフィリン体代謝に関する研

究」を発表、特別講演として熊

大医学部第一内科徳臣助教は

「水俣病の臨床と病態生理」に

ついて発表、三十四人の水俣病

患者をくわしく観察、病状を分

析して集計した結果、有機水銀

中毒と認められると研究データ

をあげて解説した。最後に東大

医学部白木教授は水俣病で死亡

した患者の脳、小脳をスライ

ドで見せ、脳が脱落するのは水

俣病特有のもので、世界に例が

なく、水俣に脳性小児マヒ患者

が多く発生している。こんどの

課題は臨床、病理両面から大脳

小脳にいかにか有機水銀が分布し

ているかなど総合的な研究をつ

づけることが必要だと結んだ。

なお一行は午前中新日簗水俣工場

内の排水浄化装置を見学したの

ち、市立病院の本部長患者を引継
った。